

新見駅周辺まちづくり検討委員会 会議要旨

日 時：令和3年10月13日（水）

10：00～11：45

場 所：新見市役所南庁舎1階会議室1C

出席者：委員7名（欠席1名）

ワーキンググループ座長

（1）新見駅周辺まちづくりの経過報告

事務局から、基本方針（案）に記載している内容に基づき、これまでの経過について報告。

協議の中で発言があった主な内容・意見は次のとおりです。

○基本方針と基本構想の関係は。基本構想とは何か。また、基本方針はいつをターゲットにしているのか。

市の玄関口としてにぎわいを創出するとあるが、ビジネス拠点としての記載があまりないのでは。コワーキングスペースなど。オンラインで仕事をする時代であり、通信環境の整ったビジネス空間があれば、新見を離れていた人の起業創出につながるのでは。空き家活用で若い人にチャレンジしてもらうなども考えられる。

ふんわりした内容であると感じており、基本方針だからよいかもしいれないが、将来につながる実感としてわくことがもう少しあってもよいのでは。ワークショップ参加者やアンケート回答者となつなかりを持って基本方針を具体化していくかが大事である。まちづくりを担う人の候補がこの人たちである。関わった人にきちんと伝えてほしい。基本方針が出た後、関わってくれた人にフィードバックし支持してもらうよう、この人たちに味方になってもらうための方針を伺いたい。

事務局) 基本方針策定の後、基本構想を策定する。基本方針は幅広い方針を示すものである。基本構想では幅広く多岐にわたる事業を検討していく。基本方針の期間は10年程度を目途に考えている。基本構想では取り組むべき事業として、更に具体的な事業を織り込んでいく。実証実験やソフト事業など、短期的なもの。ハード的整備については中長期的にかかるものと考えており、10年程度で設定する。基本構想では、時系列を持って具体的な事業・取り組み内容を示したい。

アンケート等で大学生・高校生・そのほか市民にも協力いただいた。新型コ

コロナウイルス感染症の影響もあって情報を返せていないが、今後検討していきたい。

検討委員会、ワーキンググループ、ワークショップで検討を進めてきたが、事業化を進めるにあたっては、一般市民、事業所、大学生、高校生等にも関わっていただきたい。まちづくりの団体等に参画していただきたいと考えており、その中で皆さんにも示していきたい。

○できあがったタイミングで、自分の意見がこのように反映されたんだ、となれば、今後参画が期待できる。味方になるよう定期的にコンタクトを。

(2) 新見駅周辺まちづくり基本方針（案）

事務局から、新見駅周辺まちづくり基本方針（案）について説明。

○概要版資料にテーマを記載しているが、「みんなにやさしい」とは、市民、市外、外国人、多世代、様々な障がい者など皆さんに優しいエリアにしようというのが一つである。

「みんながたのしい」とは、中心となる美術館や土産物屋、大学生や高校生のニーズが比較的高い滞在場所の整備ができればと。

「みらいにつなげる」とは、これから人口減少や市の予算規模減少が考えられ、将来を見据えて経済的にも自立できるよう、施設の運営費などライフサイクルコストも考慮しなければならない。ワーキンググループで話をしているが、将来的にはまちづくり会社のような形も考えられる。関わった人と継続的に取り組める組織にしていく必要がある。

まだ漠然としていて、具体的に何をするのかわかりにくいと思う。実際、新見駅や美術館がどうなるか具体的なビジョンを示せばよかったが、経済的裏付けなどもっと緻密に個別にワーキンググループで検討していきたい。時系列・優先順位の整理も行っていきたい。

取組例を網羅的に記載しているが、核として新見駅・高梁川・美術館をどうするのかといった点である。新見駅のバリアフリー化が望まれているが段差解消だけでなく多言語化などいろんな人に使いやすい駅にしていくことが必要である。

また、新見駅から大学への道について交通量は比較的多いが道幅も狭い。高梁川に遊歩道を整備するなども考えられ、ウォーキングやジョギングなどレクリエーションの場にもなり、大学周辺へのルートにもなる。美術館来館者は年間2万人、集客力はある。ただ周辺への経済効果が課題である。より魅力を高めて来館者を増やし、地域にお金を落としてもらうよう、どの場所が良いのか、どういった施設が良いのか等を検討していきたい。

今後、具体的な内容について経済的裏付けも含め検討していきたい。
ソフト的な話として、子育てについては、未活用資産を活用したり、SLをもって来る、駅裏を公園にする、高梁川近辺の空き家を生かした滞在スペースの確保など、市民や来訪者が滞在できる施設も検討したい。
同時に立地適正化計画も進んでいるが、新見駅周辺だけでなく市街地全体にシームレスに効果が波及する見地から話を進めたい。

- 新見の未来につながることを考えると、人口減少が進んでおり、加速度的に1万5千人にまで進む。新見市にそんなに余裕はないだろうと考える。前もって大胆に何かする、ということを持っていないといけない。基本方針はきれいにまとまっているが、すぐできること、なかなかできないことが一緒になっている。5年たって何かしようとする、もう何もできなくなっているのではない。2020年の2万5千人を切るまでにこんなまちにするんだということできっちり出さないといけない。10年や5年でなく、3年以内にきっちりとしたことをやっていかないと。そのぐらいのスピード感を持ってほしい。

例えば、駅のバリアフリー化については、しないといけないことはわかりきったことである。できることをやる、といったスピード感で。極端な話では橋上駅舎にしてその上に美術館を持つてくるのがベストだと考えるが、それができるかどうか。意見を聞いただけでなくできることをやっていかないといいけない。

立地適正化計画で都市機能の集約とあるが、人口が減った後では都市機能の集約もできない、攻めの戦略で考えないといけない。たちまちできることを構想ではなく今やること。

新見公立大学では大学生が130人増えて780人になる。大胆に短期間でやることを考えてほしい。

- 取組例の所はすごく大事である。方針は記載してあるが、一般の人は取組例を見て判断するはずである。中心部の賑わいは人が日常的にいるかどうかが大変である。さびれているとは人がいないからであり、食事場所など何もない、そしてさらにさびれる。

どうやって日常的にいる人を増やすか。住む人、働く人、増えた大学生は卒業後どこに行くのか。その後どこかに行ってしまう、これを減らすことがポイント。若い人にとって象徴的な空間が駅前。コワーキングスペースなどは全国的な潮流であって、新見でこういったことをやるんだ、となっていないといけない。

それから、公文委員も触れたが時間に関する切迫感がない。3年では厳しいかもしれないが、遅くとも5年である。新見の体力はどんどん失われていく。まだまちが活着しているうちに何とかする必要がある。できるだけ早く変えて

いくべきである。

また、新見駅をどうにかしなくてはいけない。バリアフリーや連絡通路だけでよいのか、というところが気になる。新見駅を出たところが新見の第一印象を決める空間であるが何かないのか。情報のバリアフリーなどもある。最初のインフォメーションがどこにあるか、景観コントロールなどいろいろ問題がある。第一印象が悪いとどうしようもないので意識をしてほしい。

○観光協会としてもできることは多々ある。まずは現状認識を一致することが大事である。取組例があがっており、レンタサイクルの充実の記載もあるが、PRなど中にはすぐにでもできることはある。ワークショップでも取り組んでほしい。

○目立つことは早めにやっつけていかないと。それが皆さんに対するアピールであり、アピールができないと良く感じないし皆さん来ない。

○D51の活用について記載があるが、どういった関係があるのか。ノスタルジックにとらえていて高齢者向けかと思った。ターゲットは誰としたプロジェクトなのか。

事務局) D51については以前から市民の中でもくすぶっている話である。交通の要衝、石灰のまちであり、かつて賑わいのあった時代にD51が活用されていた。井倉にD51があり、天皇陛下を乗せたという話もあって活用について以前から話題があった。昨今、鉄道ファンも多い。将来につなげていく中で、新見のアイデンティティをつなげていくシンボリックなものは何か、という議論の中でD51ではないか、という話もあった。これを新見駅周辺に持ってきて起爆剤にできないか。今後の検討課題である。

またスピード感について、だれがやるのかという話になる。行政だけではネットワークが悪いことが多い。行政も絡めて民間、まちづくりに意識のある人を含めてまちづくり会社的な組織を作って即効性のある作業を進めたい。すぐ取り組める組織の結成が一番だと考える。

○布原を走る三重連はマニアの中で有名であった。新見の転車台がなくなり津山駅に行ってしまった。昔はすごかったと聞いている。撮り鉄にとっては聖地だった。

○熱い思いがあるのであれば、基本方針に書いておいたほうが良いのでは。

○基本方針の位置づけの中で、国土強靱化地域計画、立地適正化計画があるが、行政とプレイヤーの関係でどんなメリットがあるのか。何がやりたいか優先的に決めていかなければならない。

事務局) 立地適正化計画には都市機能誘導区域等を定めることになるが、計画に位置付けることによって、国から補助が出るものもある。国土強靱化計画でも財政措置がある。今後これらの制度も生かしながらまちづくりを進めていく。

- 交流空間整備など、できることから早めに進めていただきたい。
- 皆さんから良い意見があり、行政や各種団体にプランを出してもらっている。駅前連合町内会としては手をこまねいている状況であったが、少しずつ前進しているのを見て心強く感じている。新見駅を利用する、美術館を活用するなど、地元がなかなか参加できていない。大学生が多く駅前に居住するようになるが、現状、駅前は高齢者一人世帯が多く、なかなか子供・若い人と話をする機会もない。

これではいけないと思う。長年、駅前イルミネーションをやっているが、高齢化でだんだんできる人が減ってきている。学生など参加して手伝ってもらえれば、来訪者へのおもてなしなどできると思う。ワークショップに関わった人にもぜひ参加して盛り上げてもらいたい。

ただ、駅前連合町内会は経済的に小規模で活動資金に乏しい。行政からの補助なども考えてほしい。

- 基本方針の13ページに記載の新見駅西エリア整備事業について、先ほどの説明で大学で考えている、とあったが、これまで市と大学と協議を進めてきた。最終的には新見公立大学がフリースペースを直接借りて、大学の地域共生推進センター駅前支所として使用することに決まった。

これまでも町内会とも協議をしてきたが、大学が使うことになったので、具体的に町内会とも話をしたい。例えば、里親制度みたいな形でマッチングをかけることも考えられるし、イルミネーションの協力も喜んでするのではないか。また、100人の学生が居住するようになれば賑わいが出ると思う。学生が安全に通えるような環境を作ってほしい。雨が降ると「ら・くるっと」がいっぱいになる。

780人の大学生が住むまちとして、人口3万以下の中山間地域にある大学は新見だけである。まちの人、行政と一緒にまちを作る、人と地域を作っていきたい。

- 新見市民にとってSLは身近なものでありアピールしたいという思いもある。展示だけでなく走れるようにしたい、できれば伯備線を走らせたい、という思いがある。また、昔からの交通機関として高瀬舟もあったので、何かPRできればと考えている。

(3) その他

○基本方針案が最終的な冊子になった時点で、ワークショップ、ワーキンググループに協力してもらった人にお礼をすることで、巻末に参加者リストを追加してもよいのではないか。方針のターゲットとするタイミングを付け加えて、だれが協力して作ったのか追加してもよいかと考える。

事務局) ご意見を受けて、検討委員会、ワーキンググループ、ワークショップ参加者について了承が得られれば掲載する方向で考えたい。